【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年6月9日(2025.6.9)

【国際公開番号】WO2022/260098
【出願番号】特願2023-527906(P2023-527906)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/64(2006.01)
Ａ６１Ｆ　2/70(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/64
Ａ６１Ｆ　2/70

【手続補正書】
【提出日】令和7年5月30日(2025.5.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１部材と、
第２部材と、
前記第１部材と前記第２部材との成す角を変更可能に連接する連接部と、
延在方向の一方側が前記第１部材に機械的に接続され、他方側が前記第２部材に機械的に接続されるとともに伸縮することにより前記第１部材と前記第２部材との前記成す角を変更可能な伸縮装置と、を備える継手装置であって、
前記連接部の連接軸を中心とした前記第１部材と前記第２部材との成す角のうち、１周の一方側を第１成す角、他方側を第２成す角とし、
該第１成す角及び該第２成す角のうち、前記第１部材と前記第２部材とが相対移動する範囲における最小成す角度が小さい方を前記第２成す角としたとき、
前記伸縮装置は、少なくとも一部が前記第１成す角側に配置される、継手装置。
【請求項２】
請求項１に記載の継手装置であって、
前記伸縮装置は、前記第２成す角が大きくなるときに、前記延在方向の長さが小さくなるよう設けられる、継手装置。
【請求項３】
請求項１に記載の継手装置であって、
前記伸縮装置は、
回転動力を出力する動力源と、
該動力源から出力される回転動力を並進運動に変換する運動変換機構と、を有する、継手装置。
【請求項４】
請求項３に記載の継手装置であって、
前記運動変換機構は、前記第１成す角側に配置される、継手装置。
【請求項５】
請求項３に記載の継手装置であって、
前記運動変換機構は、
軸部材と、該軸部材の回転により前記軸部材の軸線に沿って並進運動する筒部材と、を

有する、継手装置。
【請求項６】
請求項５に記載の継手装置であって、
前記伸縮装置は、前記第２成す角が大きくなるときに、前記軸部材に引張力が作用するように設けられる、継手装置。
【請求項７】
請求項３に記載の継手装置であって、
前記動力源は、前記第２成す角側に配置される、継手装置。
【請求項８】
請求項３に記載の継手装置であって、
前記動力源に電力を供給する蓄電装置を有し、
前記蓄電装置は、前記第１成す角側に配置される、継手装置。
【請求項９】
請求項８に記載の継手装置であって、
前記運動変換機構は、前記第１成す角側に配置され、
前記動力源は、前記第２成す角側に配置される、継手装置。
【請求項１０】
第１部材と、
第２部材と、
前記第１部材と前記第２部材との成す角を変更可能に連接する連接部と、
延在方向の一方側が前記第１部材に機械的に接続され、他方側が前記第２部材に機械的に接続されるとともに伸縮することにより前記第１部材と前記第２部材との前記成す角を変更可能な伸縮装置と、を備える継手装置であって、
前記伸縮装置は、
軸部材と、該軸部材の回転により前記軸部材の軸線に沿って並進運動する筒部材と、を有する運動変換機構を備え、
前記連接部の連接軸を中心とした前記第１部材と前記第２部材との成す角のうち、１周の一方側を第１成す角、他方側を第２成す角とし、
該第１成す角及び該第２成す角のうち、前記第１部材と前記第２部材とが相対移動する範囲における最小成す角度が小さい方を前記第２成す角としたとき、
前記伸縮装置は、
前記第２成す角が大きくなるときに、前記軸部材に引張力が作用するように設けられる、継手装置。
【請求項１１】
請求項１～１０のいずれか一項に記載の継手装置であって、
装着主体に対して前記第１部材が前記第２部材に対して該装着主体の末端側となるよう装着される義肢装置である、継手装置。
【請求項１２】
請求項１１に記載の継手装置であって、
前記義肢装置は、前記装着主体の脚部に装着される義足装置である、継手装置。
【請求項１３】
請求項１２に記載の継手装置であって、
前記第２部材が前記脚部の大腿部に装着され、
前記連接部が、前記大腿部と下腿部との間の膝関節として機能するよう設けられる、継手装置。